

報告書

氏 名	反保 祐希
研 修 名	海外フィールドワーク「観光で見る福島とタイ」
主催団体名	福島大学経済経営学類 佐野特別演習
研 修 国	タイ
研 修 期 間	9月19日 ～ 10月1日 (13日間)
研 修 目 的	佐野特別演習では、学生主体でのアジアフィールドワークを毎年行っています。今年 は、「観光」をテーマにタイで海外研修を実施しました。日本と関わりが深く、訪日観 光客数が増加しているタイで、タイ人観光客の特徴や実態について調査し、日本と福 島のインバウンドの可能性について考察していくことを目的にしています。
研 修 内 容	<p>現地では、主にインタビュー調査やプレゼンテーションを行ってきました。訪問先は JICA、JETRO現地事務所、日系企業の現地事務所、現地企業、大学などです。</p> <p>9月19日 成田空港14時25分発 ドンムアン国際空港19時10分着 20日 JICAバンコク事務所訪問、ドンムアン国際空港19時25分発チェンマイ国際 空港20時40分着 21日 在チェンマイ日本国総領事館、チェンマイ大学訪問 22日 バンロムサイ訪問 23日 チェンマイ国際空港21時10分発 ドンムアン国際空港20時40分 24日 JETROバンコク事務所、HIS 訪問 25日 アジアクリック、SMIトラベル、バンコクポルタ、JTB 訪問 26日 シーナカリンウィロート大学訪問共同プロジェクト 27日 バンコク視察 28日 ドンムアン国際空港7時30分発 プーケット国際空港9時15分着 29日 プーケット視察 30日 プーケット国際空港22時55分発 ドンムアン国際空港22時20分着 10月 1日 ドンムアン国際空港11時05分発 成田空港19時25分着</p>
研修の成果	タイへのフィールドワークでは、「観光」をテーマに日系旅行会社の現地事務所、 現地旅行会社、また日本や福島へのインバウンドに深く携わっている現地企業を訪問 し、インタビューを中心に日本へのインバウンドの現状について調査してきました。 また、バンコクとチェンマイにあるシーナカリンウィート大学とチェンマイ大学の学

	<p>生との交流を通して日本とタイの関係性や観光インバウンドに対する理解を深めることができました。現地視察では、チェンマイ、バンコク、プーケットを訪れ、観光インフラの整備状況や街頭インタビューなどを通してそれぞれの観光の特徴を調査してきました。今回のタイフィールドワークでは特に、「福島」と「東北」のインバウンドの現状と今後の可能性について学ぶことができました。</p> <p>2013年にビザが免除になったことにより、タイから日本へのインバウンドが急増しました。JETRO 訪問で日本食についてのお話を伺った際に、日本食ブームが続いていることや、日本旅行をした上で日本食を食べたいと思うタイ人が増加傾向にあると聞き、今後も訪日するタイ人は増えていくことがわかりました。また、各企業、団体のインタビュー調査からわかったタイ人観光客の特徴として、何度も日本を訪れるタイ人も多く、東京、名古屋、大阪といったゴールデンルート以外にも日本人が知らないような地方に関心があるとことが挙げられます。さらに、四季や雪、花はタイ人が好む傾向があり、福島県や東北地方はタイ人にとって魅力的で今後注目されうる観光スポットであるように感じました。</p> <p>しかしながら、まだ PR の面で課題が多いように思えます。今後訪日インバウンドを増やしていくためには、国内外に福島のイメージを定着させていかなければなりません。桃や清酒といったものはタイ人に人気がありますが、福島県と桃や清酒のイメージがまだむすびついては無いのが現状です。これに対し、訪問したほとんどの企業がおっしゃっていたのは、口コミや SNS の普及が観光 PR する上で重要なコンテンツになるということです。タイでは SNS の普及率が高く、旅行や観光をした際に口コミを投稿する傾向が高いため、今後の福島の知名度、イメージ定着に大いに影響することがわかりました。</p> <p>今回のフィールドワークを通して、PR 面での課題や観光インフラなどインバウンド増加に向けての現状と取り組むべき課題を知ることができました。また、インタビュー調査や大学で行った福島に関するプレゼンテーションの現地学生の反応から福島県にはタイ人にとって魅力ある観光資源があることを知り、日本だけでなく福島の観光インバウンドの可能性を考察することができました。</p>
今後の取組	<p>今後は、上記で述べた研修の成果をもとに論文を作成する予定です。タイのインバウンド増加に向けて日本、福島県の可能性についてまとめていきたいと考えております。また、学区内外の報告会も予定しております。学区外での報告会に関して、福島大学経済経営学類で実施されている「多文化体験プログラムの創出～観光を通して～」の一貫でタイのほかにも中国、ロシア、アメリカ、ヨーロッパなど六か国で研修を行った学生が共同で行う「ワールドツアー in fukudai」というイベントでの調査報告発表を予定しています。昨年の同イベントでは福島民報新聞社に大きく取り上げられ、多くの人に、今回の研修の成果を共有する有効なイベントであると考えております。同イベントでは、発表だけでなくタイ料理を提供し、現地で感じたタイの文化や学びを発信できるよう努めていきます。</p>



HIS 訪問



シーナカリンウィート大学アンケート調査様子



アジアクリックインタビュー調査の様子